

様式 6

平成19年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 研究種目名 特定共同利用(B)
2. 課題番号または共同利用コード 2007-B-02
3. 研究課題(集会)名 和文: 関東地方の地震テクトニクス
英文: _____
4. 研究期間 平成19年 4月 1日 ~ 平成20年 3月31日
5. 研究場所 東京大学地震研究所
6. 研究代表者所属・氏名 防災科学技術研究所 小原一成
(地震研究所担当教員名) 平田 直

7. 共同研究者・参加者名(別紙1に記載)

共同研究者名	所属・職名	備考

8. 研究実績報告(成果)(別紙2に記載)

10. 成果公表の方法(投稿予定の論文タイトル、雑誌名、学会講演、談話会、広報等)
研究集会の成果をホームページに掲載予定。

別紙 1

7. 共同研究者・参加者名

共同研究者名	所属・職名	備考
小原 一成	防災科学技術研究所 センター長	研究代表者
平田 直	東京大学地震研究所 教授	地震研担当教員
棚田 俊收	神奈川県温泉地学研究所 主任研究員	
永井 悟	神奈川県温泉地学研究所 特別研究員	
本多 亮	神奈川県温泉地学研究所 技師	
堀 貞喜	防災科学技術研究所 部長	
関口 涉次	防災科学技術研究所 総括主任研究員	
野口 伸一	防災科学技術研究所 総括主任研究員	
汐見 勝彦	防災科学技術研究所 主任研究員	
木村 尚紀	防災科学技術研究所 主任研究員	
浅野 陽一	防災科学技術研究所 研究員	
松原 誠	防災科学技術研究所 研究員	
武田 哲也	防災科学技術研究所 研究員	
関根 秀太郎	防災科学技術研究所 研究員	
佐藤 比呂志	東京大学地震研究所 教授	
卜部 卓	東京大学地震研究所 准教授	
鷹野 澄	東京大学地震研究所 准教授	
森田 裕一	東京大学地震研究所 准教授	
酒井 慎一	東京大学地震研究所 准教授	
鶴岡 弘	東京大学地震研究所 助教	
中川 茂樹	東京大学地震研究所 助教	
蔵下 英司	東京大学地震研究所 助教	
加藤 愛太郎	東京大学地震研究所 助教	

8. 研究実績報告

首都圏の位置する関東地方直下では、太平洋プレート、フィリピン海プレート、北米プレートの 3 つのプレートの相互作用のために、微小地震から大地震まで、活発な地震活動が起きている。この関東地方における地震テクトニクスを理解することは、プレート間地震、スラブ内地震、内陸地震の発生機構とそれらの相互作用を解明するために重要である。

さらに、首都圏に対して甚大な地震災害を及ぼす大地震の発生機構とその実体を解明することは、首都圏における地震防災に貢献できる。

首都圏に置ける地震観測体制は 1970 年代から順次整備され、それと呼応するようにテクトニクスに関する新たな発見があった。1970 年代までは気象庁によって観測が行われ、二重深発地震面の発見が成された。1980 年代には 3000m 級深層観測施設や関東東海観測網が整備され、浅い地震の存在が知られるようになると共にプレートモデルが提唱された。1990 年代に入ると 2000m 級深層観測施設の整備によってフィリピン海プレート内二重面の存在や基盤構造が得られた。2000 年台には高感度地震観測網(Hi-net)が整備され、また大大特による構造探査の結果、詳細なフィリピン海プレート上面の構造を得た。2007 年からは、首都直下地震防災・減災特別プロジェクトによる首都圏地震観測網(MeSO-net)の整備が始まっており、新たな知見が得られることが期待される。

本年度は、これまでに関東地方で収集されたデータ、現在蓄積しつつあるデータ、今後得られるデータを総合して、関東地方の地震テクトニクスを様々な観点から議論を行った。以下の研究会を開催して、議論を深めた。

研究集会 プログラム

日時：2008 年 3 月 19 日 10 時 15 分～17 時 10 分

場所：東京大学地震研究所 1 号館 セミナー室

- 1 小原一成 主旨説明
- 2 野口伸一 関東地方のサイスモテクトニクスと沈み込み様式
- 3 松原誠 トモグラフィー法で得られた関東地域の速度構造
- 4 関根秀太郎 関東地方の減衰構造トモグラフィー
- 5 鷲谷威 関東におけるプレート間カップリングやスロースリップ
- 6 平田直 首都直下プロジェクトの概要と進捗
- 7 小林励司 関東アスペリティ・プロジェクト
- 8 佐藤比呂志 反射法地震探査から見た関東下のプレート形状と テクトニクス
- 9 五十嵐敏博 レシーバ関数解析から推定されるフィリピン海プレート境界
- 10 内田直希・松澤暢・中島淳一・長谷川昭・弘瀬冬樹 変換波から推定される関東地方のフィリピン海プレートの上面深度と厚さ
- 11 棚田俊収・本多亮・永井悟 神奈川県を中心とした伊豆衝突帯の地殻構造と地震活動
- 12 武田哲也 マルチチャンネル反射法探査から得られた相模湾プレート境界
- 13 林広樹・笠原敬司 関東平野の基盤構造とテクトニクス
- 14 笠原敬司 統一モデルから構造地質学を考慮した新モデルへ

研究集会「首都圏における地震テクトニクス」参加者

No.	氏名	所属
1	小原一成	防災科学技術研究所
2	野口伸一	防災科学技術研究所
3	松村正三	防災科学技術研究所
4	山本英二	防災科学技術研究所
5	小村健太郎	防災科学技術研究所
6	汐見勝彦	防災科学技術研究所
7	関根秀太郎	防災科学技術研究所
8	松原誠	防災科学技術研究所
9	浅野陽一	防災科学技術研究所
10	武田哲也	防災科学技術研究所
11	上野友岳	防災科学技術研究所
12	平田直	東京大学地震研究所
13	笠原敬司	東京大学地震研究所
14	萩原弘子	東京大学地震研究所
15	佐藤比呂志	東京大学地震研究所
16	渡辺秀文	東京大学地震研究所
17	鷹野澄	東京大学地震研究所
18	鶴岡弘	東京大学地震研究所
19	五十嵐俊博	東京大学地震研究所
20	石辺岳男	東京大学地震研究所
21	金幸隆	東京大学地震研究所
22	新井隆太	東京大学地震研究所
23	中川茂樹	東京大学地震研究所
24	吉田武義	東北大学
25	中島淳一	東北大学
26	内田直希	東北大学
27	鷺谷威	名古屋大学
28	小林励司	鹿児島大学
29	飯村隆	茨城大学
30	津村紀子	千葉大学
31	林広樹	島根大学
32	棚田俊收	神奈川県温泉地学研究所
33	永井悟	神奈川県温泉地学研究所
34	高橋雅紀	産業技術総合研究所
35	横倉隆伸	産業技術総合研究所
36	石井透	清水建設
37	津田健一	清水建設